JECCNEWS

2020年10月1日　季刊発行 No.567

2020.秋号

CONTENTS

JECC「保守サービス向上月間」で優秀保守技術者・応募作入賞者を表彰 ―― 2

CEATEC 2020 ONLINE、10月20日に開幕 ―― 3

寄稿

WITHコロナ時代の
テレワーク社員のメンタルケア ―― 4
新宿ゲートウェイクリニック 院長　吉野聡

IT Topics & News ―― 7
・『IT人材白書2020』を発行【IPA】

シリーズ JECC営業パーソンインタビュー㉘ ―― 8
（文教営業部　営業課）

JECC 2020年度保守状況調査まとまる ―― 10

ITとファイナンスを、プロデュース。

JECC

JECC「保守サービス向上月間」で優秀保守技術者・応募作入賞者を表彰

JECCは、毎年10月を「保守サービス向上月間」と定め、コンピュータ保守技術者の日頃の努力を称える「優秀保守技術者表彰」を実施している。今年は49回目を迎える。JECCでは、この行事の一環として、お客様を対象に保守状況調査を実施し、その結果を基に保守サービスの向上を図る保守サービス総点検運動を実施し、優れた保守技術者を表彰することで、さらに保守技術・保守サービスの向上が図られることを期待している。

このほど今年度の受賞者として、優秀保守技術者25グループ222名と、保守サービス向上月間標語及び保守サービスに関する感想文の受賞者7名を決定した。この表彰では、システムの安定稼働を維持するために日夜努力されている多くの保守技術者の中から、特に顕著な功績のあった方々を優秀保守技術者として、また、応募の保守サービス向上月間標語と感想文で入賞された方々をJECCが表彰し、その栄誉を称える。今回表彰される229名のうち、優秀保守技術者は25グループ222名で、昨年度までに受賞した優秀保守技術者は、累計で8,127名。今回の222名が加わると、8,349名になる。

優秀保守技術者の審査は、コンピュータ・メーカー6社及び6社から委託を受けた保守サービス担当会社並びに保守担当先のお客様から推薦書が提出された者を対象に、保守サービス会社及びJECCで構成する「保守サービス責任者会議」で、次の選考基準に基づいて行われた。

①担当するお客様における保守状況が良好で、システムの故障時間が極めて少なく、システムの円滑な運用に顕著な功績があったと認められる者。

②保守技術者の活動を支援し、保守サービスの向上に特に功績があったと認められる者。

③保守技術の改善に特に功績があったと認められる者。

また、JECCが保守サービス関係者を対象に募集した「保守サービス向上月間標語」は、ハードウェア、ソフトウェア保守サービスの重要性や、保守技術者並びに保守サービス業務に携わる者としての心構えを短い言葉で的確に表現した内容で、最優秀作品については、その年の保守サービス向上月間のポスター等に掲載される。今年度の応募数は1万6,898編となり、審査の結果、最優秀作品1編と、優秀作品2編を決定した。

「感想文」は、保守サービス全般に関するものをテーマに募集を行い、375編の作品が寄せられた。いずれも、保守技術者や保守サービス関係者の日頃の努力や貴重な体験がにじみ出ており、仕事への熱意にあふれた素晴らしい内容である。こちらも保守サービス責任者会議により、最優秀賞作品1編、優秀賞作品3編が選出された。

水道標準プラットフォーム(クラウド)の提供開始!!

JECC

水道事業の高度化や効率化、広域化の実現をご支援致します!

「水道標準プラットフォーム」は、経済産業省の補助事業者に弊社が採択され、構築を進めてきたもので、水道事業者様が選定されたアプリケーションを搭載しご利用頂くサービスとなっており、2020年5月11日に提供を開始しました。
水道法で定められた水道施設台帳の作成にご利用可能な「簡易台帳アプリケーション」も準備しております。デモンストレーション利用も可能でございますので、お気軽にお問合せください。

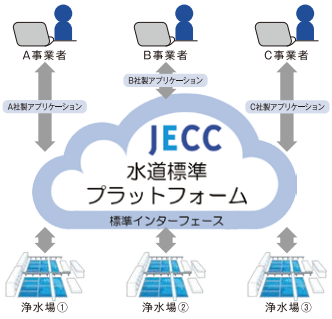
導入のメリット

メリット1 **規模に合わせた月額利用**
事業規模に合わせたシステム利用で経営資源の最適化!

メリット2 **データ利活用の促進**
システムをまたいだ事業データ利活用の検討が可能!

メリット3 **広域化等の統廃合対応が容易**
広域化・施設統廃合への対応が可能!

メリット4 **リモート対応に強み**
遠隔操作で、BCP対応・テレワークの推進策に!



WEB説明会を随時開催中!

お気軽にお申込みください・**無料**です!
（WEB会議用端末の貸出も致します）

主なご説明内容
・水道標準プラットフォームの概要
・事業者様検討事例のご紹介
・広域化検討事例のご紹介
・参画予定アプリケーションベンダー情報
・簡易台帳アプリケーションのご紹介
・調達の流れ
・お見積のご相談

お問い合わせはこちら!
jecc-wsp@jecc.com

株式会社 JECC　本 社：〒100-8341 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号（新国際ビル）　支 店：北海道　東北　関東　中部　関西　中国　九州

CEATEC 2020 ONLINE、10月20日に開幕

「Society 5.0の総合展」に今年は好きな時間、好きな場所から来場可能

今年は史上初のオンライン開催

CEATEC 2020 ONLINE(主催:一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)など)が10月20日(火)に開幕する。今年は新型コロナウイルス感染症による状況を鑑み、従来とは異なり、初のオンライン開催となる。会期は23日(金)までの4日間で、会期以降は12月末までオンデマンド形式にて公開される。

CEATECは、デジタル家電の祭典として家電見本市のイメージが強かったものを、2016年にそのイメージを一新。開催テーマに「つながる社会、共創する未来」を掲げ、CPS/IoTなどのテクノロジーを活用した未来社会を発信する展示会へと大きく舵を切った。いまでは、業種や産業を超えた連携による事業創出や世界各国との政策連携なども含めた「共創」を生み出す場としての認知も広がっており、毎年新たな出展者を迎えながら、「Society 5.0の総合展」として、業界の垣根を超えて、幅広い業種の企業や団体が集まる展示会となっている。

例年は幕張メッセでの開催だが、今年はオンライン開催ということで、これまでのCEATECとは異なる新しい取り組みとして展開される。「CEATEC - Toward Society 5.0 with the New Normal(ニューノーマル社会と共に歩むCEATEC)」をスローガンに掲げ、コンセプトとして「New Normal(Society 5.0の実現と共に新たな社会への提案)」、「Digital Transformation(オンライン開催ならではのDX実現の提案)」、「Anytime & Anywhere(いつでも、どこからでも参加できる新たな枠組みの提案)」の3つが設定されている。オンライン上に構築する会場(WEBサイト)において、出展者が集結する展示エリアならびに主催者によるコンファレンスの映像配信を展開し、出展者と参加者がこれからのニューノーマル社会を考え共創していくための場として開催される。

キーワードは「ニューノーマル」、ソリューションやサービス、まちづくりにも注目

展示エリアで特に注目を集めそうなのが、「ニューノーマルテーマエリア」。新型コロナウイルス感染症がもたらした「新たな暮らし(ニューノーマル)」をキーワードに、持続的かつ豊かな暮らしを実現するための新たなソリューションやテクノロジー、サービスが紹介される。「ニューノーマルソリューションズ」「ニューノーマル社会を支える要素技術・デバイス」「デジタルまちづくり」の3つのカテゴリーのもと、テーマごとに複数の出展者が参画してページを構成し、展開する予定だ。その中でも「デジタルまちづくり」には地方自治体や大手建設会社が出展するなど、ニューノーマルにおける新たな取り組みとして話題を呼びそうだ。その他の展示エリアにおいても注目のサービスや先端テクノロジーが勢揃いする見込みで、初のオンライン開催で各出展者がどんな工夫を凝らした展示を展開するのか、コンテンツや発信の方法も含め、見逃せない展示が多くなりそうだ。

オンラインとリアルのハイブリッド開催を見据えて

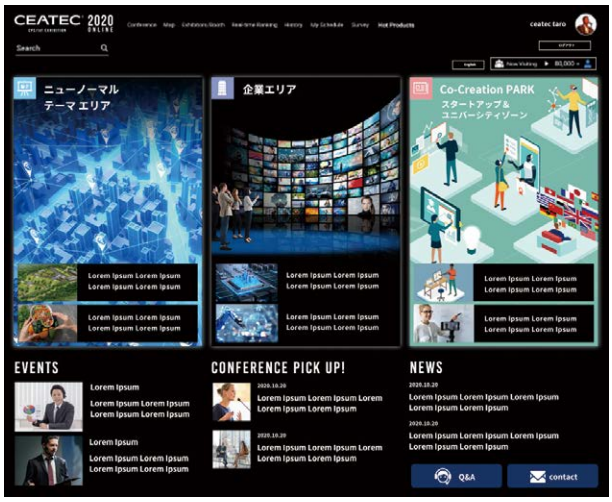
今年はオンライン開催ということで、来場者は自分の好きな時間、好きな場所からCEATECに来場することができる。また、ほぼすべてのコンテンツが日本語と英語の両方で展開される。そのため日本国内のみならず、世界各地から来場が可能となるため、これまでなかなか会場を訪れることができなかった人にとって絶好の機会となるはずだ。オンライン開催ならではのメリットを活かし、じっくりと時間をかけて展示ブースを回るもよし、多彩なコンファレンスに耳を傾けるもよし、Society 5.0に向けた各出展者の取り組みに注目してほしい。

また、来年以降、CEATECはオンラインとリアルを組み合わせたハイブリッド開催を目指すことを明らかにしている。2021年を見据えて、今年のオンライン開催に注目したい。

CEATEC 2020 ONLINE の参加方法

CEATECは全来場者登録制となっており、一人ずつオンライン上で登録が必要だ。学生から社会人まで誰でも無償で来場することができる。テクノロジーの活用をリードする、あらゆる産業・業種のフロントランナー企業の取り組みを知ることは、これからの社会や未来を考える上でのヒントになるはずだ。ニューノーマル社会のこれからを共創する機会としてぜひ活用してほしい。

CEATEC 2020 ONLINEの詳細は公式WEBサイト（https://www.ceatec.com/）にて。



CEATEC 2020 ONLINEのエントランスイメージ

寄稿

WITHコロナ時代のテレワーク社員のメンタルケア

～心のバランスを保つ方法～

新宿ゲートウェイクリニック 院長　吉野聡

新宿ゲートウェイクリニック 院長
吉野聡（よしの　さとし）
精神保健指定医。労働衛生コンサルタント（保健衛生）。2007年、筑波大学大学院人間総合科学研究科修了。東京都知事部局精神科健康管理医、筑波大学医学医療系助教等を経て、2015年4月に新宿ゲートウェイクリニック（心療内科・精神科）を開院。

不安になったりイライラするのは正常な反応

人は自分の周囲の状況が変化するとき、それが好ましいものであっても、好ましくないものであっても、ストレスを感じます。さらに、新型ウイルスとの戦いは、この先の未来を誰も予想できず、その場その場で分かってきたことや強く推測されることに対して、迅速な変化を求められるという、何とも変化の大きなストレスに満ちた状況とも言えるのです。つまり、皆さんが日頃、強い不安を抱いたり、身の回りの些細なことにイライラしたりするというストレス反応は、このような異常な状況に対する生体の正常な反応とも捉えられます。しかしながら、ストレスが過度に蓄積してしまうことによって、人はメンタルヘルスに関連した問題を抱えてしまうことは少なくありません。

テレワークでメンタルヘルス問題が増加

現在、さまざまな変化にさらされている私たちですが、その中でもテレワークの急速な普及は最も大きな変化のひとつと言えるでしょう。導入当初は、「通勤ストレスから解放された」「苦手な人に会わなくて済む」などとこれまでと異なる働き方に好意的な意見も多く聞かれました。しかし、その一方で、十分な準備が無く始まり、予想以上に長期化しているテレワークに関しては、健康管理上、さまざまな問題が発生していることも事実です。仕事に適した環境が家庭には無いことから生じる腰痛や眼精疲労、外出機会の減少による体重増加などの身体的健康問題や、職場の仲間とのコミュニケーション

が失われ、仕事とプライベートの切り替えも難しくなることから生じるメンタルヘルス問題がその代表です（図1）。実際に、精神科医である私のところにも、テレワークに関連したメンタルヘルス問題での相談が増えてきています。

自分でできるメンタルバランスの整え方

新型コロナウイルス流行前は、毎日、ほぼ決まった時間に起床し、同じ時間の電車に乗り、会社所定の昼休みにお昼ご飯を食べる、といった日常を繰り返されていた方も少なくないでしょう。実はこのような何気ない日常の働き方の中に、私たちがメンタルヘルスを良好に保つエッセンスが含まれていたのです。そこで、テレワークを行う際、メンタルヘルスを良好に保つセルフケアのポイント（図2）について紹介していきたいと思います。

①規則正しい生活リズムを確立する

テレワークは、起床時間や就寝時間がばらついたり、食事の時間が不規則になる傾向にあります。規則正しいリズムで生活を送ることは、自律神経（自分の意思には関係なく、生体内のさまざまな機能を自動的に調整する働きを持つ神経、例：心臓や腸管を動かす神経など）のバランスを整える作用があるので、テレワークを行う際も、生活リズムを一定に保つ工夫が有効です。できるだけ起床時間や就寝時間を一定にし、決まった時間に昼休みを取り、その間に昼食を取るようにしましょう。

②仕事開始前には散歩等で太陽を浴びる習慣を

人の睡眠リズムは、体内時計をつかさどる脳内ホルモン（メラトニンという眠気に関連するホルモン）によりコントロールされています。このメラトニンは、眼の網膜に太陽光が当たることにより生成が阻害され、分泌が止まります。テレワークになり、朝、外出しなくなると、太陽を浴びる機会もなくなってしまいます。すると、仕事中に眠気を催したり、逆に夜になっても眠気が訪れなかったりと、睡眠にトラブルを抱えることも少なくありません。テレワークの際も、朝は必ず外に出て、近所を散歩するなどして、太陽光にあたる習慣を続けましょう。

（図1）不安がもたらす心と体の変化の例

心臓に関連した症状 血圧上昇、動悸など	**胃腸に関連した症状** 胃痛、吐気、下痢など
代謝に関連した症状 微熱、血糖上昇など	**痛みに関連した症状** 頭痛、腹痛、生理痛など
生活習慣に関連した症状 不眠、食欲低下、浪費など	**気分に関連した症状** イライラ感、高揚感など

③小まめなコミュニケーションを意識する

テレワークになると、業務上必要なやり取りは、電話やオンライン会議システムを用いて行われますが、それ以外のコミュニケーションが大幅に減少してしまう傾向があります。日頃仲間と交わしている、「最近、調子はどう？」、「何か変わったことあった？」などという何気ない会話から、自分の不安やストレスを語り始めた経験を、多くの方がお持ちだと思います。人は、不安な時に、その気持ちを言葉にすることによって、頭の中が整理され、不安が和らぐ性質を持っています。ですから、テレワークになっても、人と話すことの重要性を忘れず、意識的に小まめなコミュニケーションを心掛けましょう。

④仕事とプライベートの空間的・時間的分離

テレワークにおける仕事とプライベートの切り替えは、非常に重要です。テレワーク中は、仕事空間≒プライベート空間となってしまいがちです。そこで、できる限り寝室では仕事をしないなどの工夫を行い、仕事から離れて安らげる空間を確保するようにします。また、仕事をする際には、部屋着ではなくスーツなどのオフィスウェアに着替えたり、お化粧や髪形などの身だしなみを整えたりすることなども、仕事とプライベートの時間を明確に区別するために効果的です。

⑤ウォーミングアップとクールダウンの時間を作る

普段は職場に向かう電車の中で、ニュースを確認しながら一日の仕事のイメージを持ってみたり、帰りの電車の中で好きな音楽を聞いたりして、職場における集中力を高めたり、和らげたりする取り組みを何気なく行っています。しかしながら、テレワークだと、そのようなウォーミングアップやクールダウンの時間がうまく取れず、仕事に集中しきれなかったり、仕事を終えても頭が冴えている感覚がしたりと、切り替えがうまくいきにくい状況におかれます。そこで、仕事を始める前に、ニュースをチェックしたり英会話を勉強したりとウォーミングアップの時間を持ち、仕事終わりには自分の好きな音楽を流しながら温かい飲み物でホッと一息つくなど、オンとオフの切り替えを意識するとよいでしょう。

（図2）メンタルヘルスを良好に保つセルフケアのポイント

- ①起床時間、昼休みの時間、就寝時間などを一定にして生活リズムを安定させる
- ②朝は外に出て太陽光を浴び、睡眠をコントロールする
- ③できるだけコミュニケーションを取り、会話をする
- ④仕事とプライベートで、場所・時間を区切る
- ⑤仕事前のウォーミングアップ、仕事後のクールダウンの時間を作る

時代はいま、新しい息吹を求めて、大きく動きはじめています。
今日を生きる人々がいつも元気でいられるように、
明日を生きる人々がいつもいきいきとしていられるように。
日立グループは、人に、社会に、次の時代に新しい風を吹き込み、
豊かな暮らしとよりよい社会の実現をめざします。

HITACHI
Inspire the Next

日立の樹オンライン　www.hitachinoki.net

株式会社 日立製作所　〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号　電話(03)3258-1111(大代)

IT Topics & News

『IT人材白書2020』を発行
4割強の企業がDXへの取り組みを実施【IPA】

独立行政法人情報処理推進機構（略称＝IPA）は、2019年度IT人材動向調査を実施。8月31日、その調査結果を取りまとめた『IT人材白書2020』を発行した。同調査は、IT人材育成施策に必要となる基礎データの収集や、IT人材をとりまく環境や動向、人材個人の意識の把握などを目的として2008年から毎年実施。調査の翌年に『IT人材白書』として発表している。本格的なデジタル社会が到来し、社会構造を見直すデジタルトランスフォーメーション（DX）の取り組みが注目される中、『IT人材白書2020』は、重要性の高い領域である「DX取り組み企業やDXに対応する人材」、「IT企業やユーザー企業におけるIT人材の場の拡がり」という観点から、企業やIT人材の現状を把握するため調査・分析した。2019年度調査では、ユーザー企業のIT人材の“質”の不足感や内製化状況、IT企業の人材の“量”、“質”の過不足感は、従業員規模により異なる傾向やスキル把握の方法に変化が見えた。

従業員規模別のIT人材の“質”に対する不足感を2018年度調査と比較すると、顕著な傾向としては、1,001名以上のユーザー企業で「大幅に不足している」割合が48.3%となり、10.2ポイント上昇している。また、従業員規模別のIT人材の“量”に対する過不足感を2018年度調査と比較すると、2019年度調査では、300名以下のIT企業で「大幅に不足している」割合が低下している。31名以上100名以下のIT企業では11.0ポイント、30名以下のIT企業では8.9ポイント低下している。一方で301名以上のIT企業では「大幅に不足している」割合が上昇しており、特に301名以上1,000名以下のIT企業では9.3ポイント上昇していた。

ITに関する業務を担当している部門（部署）をユーザー企業に尋ねた結果をIT業務の内製化状況別に比較したところ、「企画・設計など上流の内製化を進めている」ユーザー企業では、「IT部門」が「全社ITの企画」を担当している割合が85.5%と高くなっている。「プログラミング工程を含めた全体工程の内製化を進めている」ユーザー企業では、「IT部門」が「社外向けウェブシステム開発・運用」、「社外向けウェブシステム基盤構築・運用」、「データ分析などの高度化による情報活用」を担当している割合が高くなっている。

DXへの取り組み状況についての調査では、回答企業全体で、「全社戦略に基づき、全社的に取り組んでいる」、「全社戦略に基づき、一部の部門において取り組んでいる」、「部署ごとに独自、個別に取り組んでいる」を合わせると4割強の企業がDXへの取り組みを実施している。従業員規模別に見ると、従業員規模1,001名以上の企業の77.6%が、従業員規模100名以下では3割弱の企業が取り組んでいる。

『IT人材白書2020』では、DX推進において、IT企業や異業種からの流入が活発になる中、さまざまな人材が集まる組織として変革が進み、人材の評価制度、育成制度の見直しも急務であるとまとめている。

JECC 2020 年度保守状況調査まとまる

ハード中・大型システムで100.0%の保守満足度

JECCはこのほど、保守サービス向上月間にちなんで実施している「保守状況調査」の2020年度の調査結果をまとめた。

2020年3月末現在でJECCと契約しているシステム（中・大型、小型）及び周辺機器の合計2,014件を対象に、2019年4月から2020年3月までの1年間の保守状況についてアンケート調査を行ったもので、対象システム等を利用しているユーザーの設置先329件に対して調査票を発送し、132件の回答を得た（回収率40.1%）。

ハードウェア

「ハードウェア予防保守利用状況」に関しては、中・大型システムは91.7%、小型システムでは64.6%が予防保守を実施している。

「予防保守」に対する「満足度」は、中・大型システムは、「満足」が100.0%で、「やや満足」「やや不満」「不満」の回答はなかった。小型システムは、「満足」が78.1%、「やや満足」が17.2%で合わせて95.3%となった。

さらなる向上を求める点として、中・大型システムに対しては回答が得られなかった。小型システムに対しては「作業報告が不十分だった／分かりにくかった」「作業から間もなく障害が発生した」が最も多く、ともに28.6%だった。

「ハードウェアの障害発生」に関しては、中・大型システムでは66.7%、小型システムでは42.0%で障害発生があった。「障害が発生した機器の種類と平均発生回数」は、中・大型システムの障害の発生比率は「メインフレーム／サーバ」が最も多く35.7%で、続いて「ストレージ」の割合が28.6%だった。機種ごとの障害発生回数の平均（平均回数）では、「通信機器」が10.0回と最も多く、「クライアント」（5.0回）が続いた。

小型システムの障害の発生比率は、「メインフレーム／サーバ」が31.9%で最も多く、「ストレージ」（23.2%）が続いた。平均回数では、「プリンタ」が6.3回と最も多く、「メインフレーム／サーバ」（2.5回）が続いた。

「障害対応への満足度」は、中・大型システムでは、2019年度と同様に、「満足」「やや満足」合わせて100.0%だった。小型システムでは、「満足」「やや満足」合わせて92.9%と、肯定的な回答が9割以上を占めた。さらなる向上を求める点として、中・大型システムでは「障害対応後に障害が再発生した」という回答が1件あった。

小型システムでは「障害対応後に障害が再発生した」が26.7%で、「原因の究明に時間がかかった」が20.0%、

続いて「保守員の到着が遅かった」「作業の中間・最終報告が分かりにくかった／不十分だった」「その他」が同率で13.3%だった。

ハードウェアの予防保守、障害保守等に対する満足度は中・大型システムでは、100.0%が「満足」「やや満足」の回答であった。

ソフトウェア

「ソフトウェアの障害発生」に関しては、中・大型システムでは障害発生がなく（0%）、小型システムでは16.2%でソフトウェア障害が発生した。

「障害が発生したソフトウェアの種類」に関しては、「障害があった」との回答の合計件数に占める割合（発生比率）をソフトウェアの種類別に見ると、小型システムでは、「パッケージソフトウェア」が32.0%で最も多く、「OS（制御プログラム）」（28.0%）、「データベースソフトウェア」（16.0%）と続いた。

「ソフトウェアの障害対応への満足度」について、中・大型システムは障害発生0件のため、回答はなかった。小型システムは「満足」が43.8%、「やや満足」が31.3%となり、「やや不満」が25.0%と続いた。さらなる向上を求める点として、中・大型システムでは回答がなく、小型システムでは「原因究明に時間がかかった」が最も多く50.0%を占めた。

今後期待する保守サービスメニュー

今後JECCに期待する保守サービスメニューのうち、最も回答数が多かったのは「障害予兆の検知・通知」に関する保守サービスメニューで54件、回答の20.5%を占めた。続いて、「障害発生自動検知・通報」が17.4%を占めた（表1）。

（表1）お客様の今後期待される保守サービスメニューに関する調査項目と回答数（2020年度）

調査項目	回答数	割合
セキュリティ対策	44	16.7%
障害予兆の検知･通知	54	20.5%
障害発生自動検知･通報	46	17.4%
システム稼働状況の遠隔監視	17	6.4%
遠隔(リモート)保守	24	9.1%
インシデント･障害レポートの提供	19	7.2%
構成管理の委託(マルチベンダに対応)	4	1.5%
ファームウェア更新情報の分析と提供	10	3.8%
ソフトウェア更新情報の分析と提供	10	3.8%
長期保守対応	22	8.3%
障害発生時のマイナンバー情報の取扱	0	0.0%
IT以外保守を含む統合的な保守対応	1	0.4%
省エネルギー対応	3	1.1%
BCP対応	9	3.4%
その他	1	0.4%
合計	264	100.0%

※回答件数（2020年度）：中・大型システム31件、小型システム233件

Microsoft社ライセンスのリースは JECCにお任せください！

JECCはMicrosoft Corporation（※1）の公認金融パートナーです。
Microsoft社ライセンスのご導入を検討されている際には、是非弊社にご相談ください。
ライセンス使用許諾契約に則ったファイナンスソリューションをお客様にご提案いたします。

お客様のメリット

1 ライセンス使用許諾契約に則ったリースでの導入が可能です

Microsoft社のライセンスは、リースによる導入が認められていない場合があります。
Microsoft Corporationの公認金融パートナーである弊社は、ライセンス使用許諾契約に則りお客様のコンプライアンスニーズに対応した契約方法をご提案することが可能です。

2 お客様のご予算に合わせたフレキシブルなお支払プランをご提供いたします

費用の平準化/中長期の投資計画に合わせた予算配分/短期の投資予算枠の捻出・確保といった、お客様のご要望に沿ったフレキシブルなお支払プランをご提案いたします。

3 トータル・ソリューション・ファイナンスをご提供いたします

Microsoft社のソフトウェアだけではなく、他社のソフトウェア（※2）、サービス、ハードウェアの購入費用、保守料等についてもご対応いたします。

弊社はお客様の総IT投資コストをすべて平準化できます！

トータル・ソリューション・ファイナンスのイメージ図

※1：Microsoft Corporationとは……アメリカのワシントンに本社を置く、ソフトウェアを開発、販売する世界を代表する企業。
※2：他社ソフトウェアは、使用許諾条件の関係からリースとしてお取り扱いできない場合がありますので、事前にご相談願います。

お問い合わせ先　株式会社 JECC　営業統括本部 TEL：03-3216-3750

JECCNEWS編集部からのお知らせ

本誌送付先の変更・中止については弊社技術調査課までご連絡いただきますようお願い申し上げます（ご連絡の際は、封筒の宛名に記載されているお客様番号をお知らせください）。

お客様からご提供いただいた個人情報はJECCNEWSの発送のみに利用させていただき、それ以外の目的で利用することはありません。なお、個人情報の取り扱いについては、弊社ホームページに掲載しております「個人情報保護方針（https://www.jecc.com/policy.html）」をご参照ください。

【送付先の変更・中止、個人情報に関するご連絡】
〒100-8341　東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル
株式会社 JECC　経営企画室　技術調査課
JECCNEWS編集部
TEL：03-3216-3680／FAX：03-3211-0990
弊社ホームページ：
「フォームでのお問い合わせ」

発行所：株式会社 JECC　〒100-8341 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル　TEL 03-3216-3680
発行人：桑田　始　　編集人：富田　卓志
本誌記事等の無断転載を禁じます。